

KIPPオンライン講座
対人関係と組織の心理学 第11講義

組織の病理 パート3 問題のあるリーダー (1)

講師 川畑直人

(教育学博士・臨床心理士・公認心理師・WAWI精神分析家)

オットー・カーンバーグ Otto F. Kernberg (1928 -)
米国の精神科医、精神分析家。
ウェイル・コーネル医科大学
教授。
境界性人格構造や自己愛病
理に関する精神分析理論で有
名。リーダー論、組織論にも
取り組んでいる。

(Wikipedia参照)



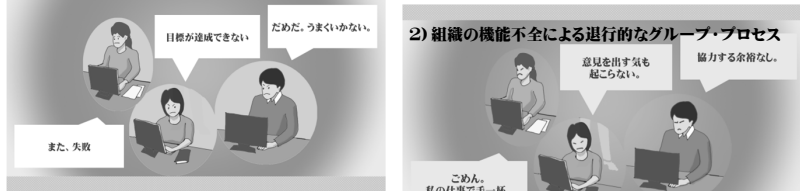
組織におけるパラノイア生成

- ・職場にはさまざまなパラノイド状態を生むメンバーの病理的行動がある(反社会性、パラノイド、抑うつ)
- ・paranoiagenesis
- ・組織的なパラノイド状態が発生する背後には、
 - 1) 基本課題の達成が阻まれ、課題遂行システムが崩壊する。
 - 2) 組織の機能不全による退行的なグループ・プロセス
 - 3) 個人に普遍的に潜むパラノイド退行の傾向

問題のあるリーダー (1) 職場におけるリーダーの心理的課題

組織の病理が生み出される背景に、問題のあるリーダーの存在が考えられる。力動精神医学の権威、カーンバーグが問題のあるリーダーについての述べている。ここではまず、リーダーが職場でこなさなければならない、心理的な課題について触れておきたい。

1) 基本課題の達成が阻まれ、課題遂行システムが崩壊する。



2) 組織の機能不全による退行的なグループ・プロセス



3) 個人に普遍的に潜むパラノイド退行の傾向



リーダーの内的作業

- ・攻撃性を含んだ意気込みをもちつつ
 - ・課題達成に向けて攻撃性を昇華する
 - ・自分に投影された攻撃性に飲まれることなく
-
- ・不確実な状況で意思決定を行う

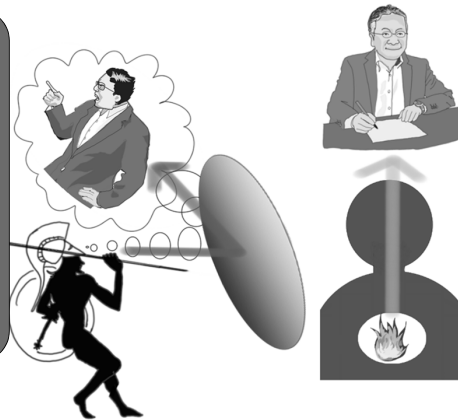


リーダーがおかれる位置

- ・組織のリーダーは、強力な攻撃的な力が押し寄せ、十字路 (crossroad) に立たなくてはならない。
- ・その力は、リーダーの機能に、打撃を与える。



メンバーから投影される攻撃的なイメージは、跳ね返す。(身にまとわぬ)



自らの攻撃性は昇華し(適応的なものに変え)、リーダーとしてのエネルギーにする。



参考文献

- 1) 加藤正明他編 2001 精神医学事典 弘文堂
- 2) Samuel, Y. (2010) *Organizational Pathology*. NJ: Transaction Publishers.
- 3) Kets de Vries, M. F. R. & Miller, D. (1984) *Neurotic Organizations*. Jossey-Bass.
- 4) Kernberg, O. F. (1994) *Leadership Style and Organizational Pranoigenesis*. In Oldham & Bone ed. *Paranoia; New Psychoanalytic Perspective*. International University Press. Pp.61-79
- 5) フロム, E. 1941 日高六郎訳 1951 自由からの逃走 東京創元社

リーダーの役割

- 孤独、依存欲求が満たされないことに耐える。
- 組織内で投げつけられるエディプスの、性愛化された誘惑、解離されたサディズムを適切に処す。
- 正当化された「怒りの表出 indignation」への誘惑に乗らない。

